



埼玉県マスコット  
「コバトン」

令和3年産（令和2年播種）



# 麦類の生育概況 vol.3

（令和3年2月1日現在）

埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎気象概況：1月の気温は上旬が低く下旬が高く月平均は平年並だった。降水量は第5半旬にまとまった降雨があったが月合計は少なく、日照時間は平年並だった。
- ◎生育状況：生育は抑制気味で遅れ気味だが概ね順調で回復傾向。
- ◎今後取るべき技術対策
  - ・追 肥：生育と麦種に合わせた追肥を実施する。
  - ・排水対策：排水機能を保つよう明きよと排水溝の点検補修を行う。
  - ・雑草防除：雑草が発生し始める条件となってきたため注意する。発生したほ場では雑草の種類と葉齢を確認した後、適期に防除を行う。
  - ・踏圧(麦踏み)：莖立期までに10日～2週間間隔で2回程度を目標に実施する。

## 1 気象の概況

1月の平均気温は平年より上旬が低く、下旬が高く、月平均では0.1℃高かった。降水量は、23日に15.0mm、24日に10.5mmのまとまった降雨があったが、それ以外は0.5mm以上の日はなく、月合計で平年比78%であった。日照時間は、月全体を通して概ね平年並みで、月合計では平年比93%であった。

## 2 生育の概況

### (1) センター内生育相

ア 小麦（さとのそら：11月10日播種）

1月上旬が低温であったことや長期に降雨がないことにより、進んでいた生育が一時停滞した。しかし、第5半旬に降雨があり、以降高温で推移したことから生育が促進され、葉位の進展や莖数は平年を上回っている。積算気温で莖立期を予測したところ、莖立期は概ね平年並みと予想される。

イ 大麦（彩の星：11月10日播種）

小麦同様、1月上旬が低温であったことや長期に降雨がないことにより、進んでいた生育が一時停滞したが、第5半旬の降雨や以降の高温により生育が促進され、葉位の進展や莖数は平年をやや上回っている。積算気温で莖立期を予測したところ、莖立期は平年よりやや早まると予想される。

## (2) 県内全般

1 月中旬まで低温、乾燥が続いたことから、生育は抑制気味で遅れ気味であった。1 月下旬以降気温が高まり、まとまった降雨があったことから生育は回復傾向である。播種が 11 月上中旬のほ場では概ね順調に生育している。一方、播種が 11 月下旬以降のほ場や碎土、鎮圧が不十分だったほ場において、乾燥による出芽・生育の遅延、出芽のばらつきによる生育の抑制やムラがみられている。

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

気象庁の 1 か月予報（1 月 28 日発表）では、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は高い確率 60%である。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。

また、3 か月予報（1 月 25 日発表）では、3 月、4 月とも天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。

### (2) 生育予測

向こう 1 か月は気温が高くなり、降水量は平年並の予想のため、小麦、大麦ともに生育は促進され、遅れ気味、抑制気味であった生育が回復、進展すると考えられる。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 追肥

小麦は、「さとのそら」の追肥体系では出穂 2 週間前（平年 4 月初頭）に窒素成分で 3~4kg/10a を目安に施用する。ただし、莖立期後の機械散布が困難な場合は、莖立期直前（平年 3 月上中旬）に実施する。「あやひかり」は窒素成分で 2kg/10a（平年 2 月下旬から 3 月上旬）を施用する。

ビール麦は、前年産のタンパク質含量分析結果から施用時期及び施用量を調整する。高タンパク質の指摘があった場合は窒素成分で 1.5~2kg/10a（平年 2 月上旬）、低タンパク質の場合は窒素成分で 2kg/10a（平年 2 月下旬）を目安に施用する。

六条大麦は、窒素成分で 1.5~2kg/10a（平年 2 月中下旬）程度施用する。

本年は生育が抑制され遅れ気味であったが、今後、高温予想と降水量も平年並の見込みのため生育は回復し、平年並から気温によっては早まる見込みである。上記の平年を目安とし、早めに準備してほ場をよく観察し生育状況に応じた適期施肥を心がける。

### (2) 排水作業

近年まとまった降雨や降雪が多いことから、排水溝の不備は湿害を招きやすい。麦踏み等で明きよが埋もれていないか、外部の排水路と連結されているか

等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

### (3) 雑草防除

乾燥条件が解消され高温となる予想から、雑草が発生しやすくなっている。この時期は雑草が赤紫色を呈し、土壌と識別しにくいことから、発生始期を見逃してしまうことや、雑草の草丈が伸びずに葉齢が進んでしまうため、薬剤の効果が高い使用時期を過ぎてしまう可能性がある。雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さぬよう確実に除草剤散布を行う。

### (4) 麦踏み

耐倒伏性、耐寒性の向上、分げつや根の発生促進を目的に 10 日～2 週間程度の間隔を空け、ローラーに適度なおもりを載せて丁寧に行う。莖立期までに 10 日～2 週間の間隔を空け、2 回程度を目標に実施する。

ただし、今後の高温によっては特に大麦で莖立期が早まる可能性がある。莖立期後の麦踏みは減収や 2 段穂の発生などにつながることもあるため、必ず莖立期前であることを確認して麦踏みを行う。また、土壌水分が高くローラーに土がつくような場合には麦踏みは行わない。

解析・考察に用いた具体的数字

1 1月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	3.8	4.4	10.7	10.0	-2.0	-0.3	0.0	3.5	42.3	34.1
2	2.3	4.2	8.8	9.6	-2.8	-0.5	0.0	3.9	36.1	33.6
3	4.2	4.0	10.3	9.4	-2.0	-0.6	0.0	5.1	22.6	33.2
4	3.6	3.9	9.7	9.2	-1.3	-0.7	0.0	6.0	31.9	33.0
5	5.3	3.8	10.8	9.2	0.0	-0.8	25.5	6.5	24.0	33.7
6	5.4	3.9	10.6	9.3	1.0	-0.8	0.0	7.5	37.9	42.4
平均	4.1	4.0	10.1	9.4	-1.1	-0.6	合計 25.5	32.5	194.8	210.0

注1. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値。

2 生育状況

(1)11月10日播種

品種名	調査日	草丈		茎数		葉位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差
さとのそら	1月12日	13.1	104	4.9	105	5.1	0.2	24.4	124	27.2	4.0
	1月21日	12.7	99	6.5	110	5.7	0.3	32.6	120	27.2	4.3
	2月1日	12.8	97	9.2	128	6.6	0.6	44.2	118	23.5	1.4
彩の星	1月12日	14.4	101	6.8	108	5.3	0.2	37.8	118	20.2	4.1
	1月21日	15.3	101	7.9	99	5.9	0.2	57.2	126	23.5	7.0
	2月1日	17.2	101	11.2	116	6.7	0.4	80.5	119	17.9	1.6

注1. さとのそら平年値は過去7年間の平均値。彩の星平年値は過去9年間の平均値。

注2. 風乾重は100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

(2)11月24日播種(参考値)

品種名	調査日	草丈	茎数	葉位	風乾重	風乾歩合
		本年 (cm)	本年 (本/株)	本年 (L)	本年 (g/100本)	本年 (%)
さとのそら	1月5日	10.6	1.0	2.4	4.2	26.6
	1月15日	11.1	1.6	3.0	5.7	27.5
	1月25日	10.5	2.6	3.6	7.2	25.4
彩の星	1月5日	11.3	2.3	2.7	6.3	18.7
	1月15日	10.9	2.8	3.2	8.0	19.4
	1月25日	11.2	3.9	4.0	11.2	17.4

注1. 11月24日播種は今年度から調査開始(平年値はない)。

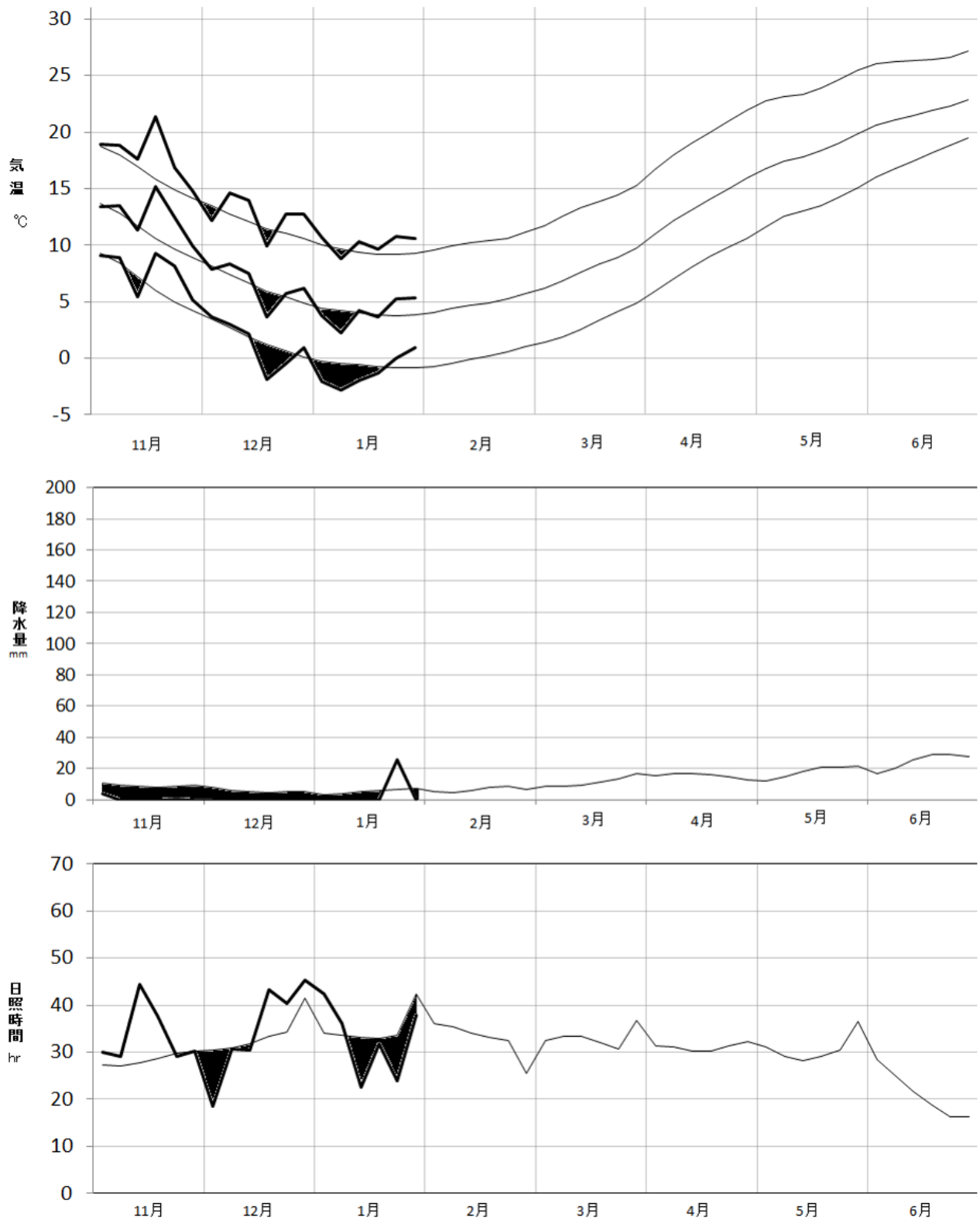
3 茎立期の予測(11月10日播種)

品種名	茎立期	平年値	積算気温から予想される本年の茎立期	
		播種日からの積算気温	平年並みに経過した場合	平年より1°C/日高い場合
さとのそら	3月12日	811	3月14日	3月9日
彩の星	2月28日	691	2月23日	2月19日

注1. 積算気温は平年値、本年とも麦調査年における熊谷地方気象台日平均気温の積算値を使用。

注2. 本年の茎立期予想には1月31日までは実測値、2月以降は平年値の日平均気温を使用。





令和2年播(3年産)冬作期間気象図  
 (熊谷地方気象台日別データより作成)